

項目	説明	
試料・情報の利 用目的 及び 利用方法	研究課題名	残胃癌におけるリンパ節転移程度の評価に関する研究
	研究目的	残胃癌においては、初発胃癌と同様に転移リンパ節個数を用いた病期分類がなされている。しかし、残胃癌手術は初発胃癌よりも郭清リンパ節個数が少ないとされ、病期分類が正しく評価されていない可能性がある。一方で、郭清リンパ節個数を考慮した Lymph node ratio (以下, LNR) や the log odds of positive lymph nodes (LODDS) は、初発胃癌においては病期分類を正しく評価し、予後因子としての有用性が報告されている。しかし、残胃癌患者における報告は少ない。そこで、残胃癌患者における LNR や LODDS の有用性について検討を行う。
	研究対象者	2000 年 1 月から 2018 年 12 月までに当院で残胃癌に対して手術を施行した 132 例を対象とする。
	研究期間	西暦 2019 年 12 月 11 日 ~ 西暦 2025 年 3 月 31 日
利用する試料・情報の項目 (チェック[X]が入った項目を利用します)	<input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> だ液 <input checked="" type="checkbox"/> 臨床検査データ <input type="checkbox"/> 病理組織 <input type="checkbox"/> 排泄物(尿・便) <input type="checkbox"/> その他(記載して下さい) <input type="checkbox"/> 毛髪 <input checked="" type="checkbox"/> 診療記録	
試料・情報の 管理について の責任者	当センター 研究責任者	大島貴
試料・ 情報を 利用す る者の 範囲	当センターでの実施診療科/部局等	消化器外科
	共同研究の場合、共同研究機関および各施設での研究責任者	なし